

問題発見学習と課題学習

——「羅生門」の学習を通して——

光 本 光 徳

目 次

- 一、はじめに
- 二、教材・学習目標
- 三、学習活動のあらまし
- 四、(A)生徒の発見による問題
(B)課題
- 五、生徒の受けとめかたと問題点
- 六、おわりに

一、はじめに

本年度新学期を前にして、一年生の現代国語の年間指導計画案を自分なりに立ててみたが、その時指導の困難さなど考えもしないで小説学習にグループ学習を取り入れてみようとして、その指導のあらましを計画表に次のようにメモしている。

○第一次感想の発表（おもしろいと思ったところ、表現のすぐれているところなど）

- 第二次感想文の発表（問題発見↓主題の予想）
- 登場人物の心理推移の整理
- (A)○問題発見による話し合い学習

- ・話し合ってみたい、考えてみたい問題について（グループ話し合い）

- ・話し合いにより、問題点を決め提出する。

- ・話し合いたい問題点の精選

- ・グループ話し合い（問題解決の話し合い）

- ・発表、全体討議

- ・主題にせまる

(B)○課題学習

- ・各グループに課題提示、話し合い

- ・発表、全体討議

- ・主題にせまる

この(A)・(B)の二つの指導方法は、私の指導力からみてなお無理な

計画案であり粗雑なものであった。しかし、新学期にはいり新一年の現国学習を進めていくうちに、生徒の国語学習への不安や悩みを聞くことが多くなり、その対策を早急に考えていかなければならなくなつたので、学習のふん囲気づくりにも自主的な学習態度養成にも思つて、積極的にこの指導案を實踐していくことにした。もちろん、「学習のすすめかた」(印刷物)や個々のプリント資料によつて、全体的な指導や各教室での指導を通して、その基礎的な学習法はいちおう徹底させていったわけであるが、やはり各国語教室での實際の学習によつて自覚させていくことがもつとも肝要であり、そのためにも早くしかも思ひきつて国語学習の方向づけをしてやり、自主的な学習態度をすこしでも身につけさせることが必要ではないかと考えたわけである。

そこで、この計画案をもう一度検討し肉づけし、指導方法の(A)「問題発見学習の方法」と(B)「課題学習の方法」とを同一教材の指導に取りあげ、それらの方法のよりよいありかたを實驗的に追求すると同時に、早い時期に国語学習の心構えを自覚させていこうと思つた。このような考えのもとに、現国を三クラス教えている関係上、時間数の都合もあつて一クラスを(A)の方法で、他の二クラスを(B)の方法で實踐してみることにした。

ここでは特に問題発見学習の方法に重点をおき、これに合わせて課題学習を實踐することによつて、それらの指導方法の問題点をさぐつていき、發展的によりよい方法を模索すると同時に、生徒の現国学習への意識化をはかりたいと思つた。そこには、おのずから私なりの今後の指導のすじみちが見えてくると思うからである。

二、教材・学習目標

○単元 小説(一) (筑摩書房 現国(一))

一、羅生門 芥川龍之介

二、網走まで 志賀直哉

その他プリント補助教材

(前単元 評論(一)「自己の認識について」手塚富雄、「西堀南極越冬隊長」桑原武夫)

○学習目標

①(A)積極的に問題点を発見し解決していく態度を養い、主体的な学習態度を養う。

(B)積極的な問題解決を通して、主体的な学習態度を養う。

②叙述の深い読みとりにより、作品の構成・人物の心理・主題をとらえ、自己の生きかたにせまる。

③近代短編小説を読み味わい、その小説の方法、特質を理解する。

④読書の習慣化をはかる。

三、学習活動のあらまし

(A)、問題発見学習(一の三)

1	時間
<p>○小説学習についてアンケートをとる(参考①)</p> <p>○アンケートの中の④「小説の読みの意義」について発表し整理する(問題意識をもつて小説を読むように)</p> <p>○目標の確認、読み——興味を感じたところ、表現のおもしろいところをメモする</p>	<p>学 習 活 動</p>

4 (40分授業)	3	2	
<p>○各目の問題記録用紙をグループごとに持ちより、それを出し合ってグループとして問題をまとめていく(グループ五〜六名構成、司会者・記録者決定)</p>	<p>○話し合いをもとにしてまとめ、各段落の内容をおさえていく。</p> <p>○全体のあらすじをおさえる(指名発表)</p> <p>○問題発見とその解決のグループ学習にはいる。</p> <p>○問題記録のメモ用紙を配布し、これからの学習のしかたについて説明する。</p> <p>○グループ学習の心構え、グループの話し合いの目的、心構えについてふれる。</p> <p>○次時予告・課題——各自、自分なりに問題を発見していく読みをしてくる。</p>	<p>○第二次読後感想文の発表(五名) 発表を聞いてそのポイントを他の生徒が指摘する(不明な点は発表者にたずねる)</p> <p>○問題点を明確にさせる(発表の要点整理、のち感想文整理、プリント)(参考②)</p> <p>○構成を調べる(三名指名)</p> <p>○発表者それ々々分けかたが違っていたので、その妥当性を求めて話し合う(羅生門という舞台と下人の動きを中心に分けてみる)</p>	<p>○次時予告・課題 ①二回目の読みのあとの感想文(第二次読後感想文——感じたこと、考えさせられたこと、印象に残ったことなど)を書く。②場面構成について考える。③語句しらべ(指名)</p>

1	<p>時間</p> <p>学 習 活 動</p>	(B)課題学習(一の一・一の五)	7・8	5・6	<p>準備</p>
<p>○小習学習のアンケート発表(前時の課題)</p> <p>○読後感想文(前時の課題)の発表(五名)——ポイント他の生徒指摘、板書、問題点整理。</p> <p>○読み(読みの指導)、場面構成について発表。</p> <p>○次時予告・課題——①ことは調べ(家庭学習とする。むずかしい語句・文についてはノートの予習欄に記入しておく)②課題プリント配布③下人の心理の変化を用紙(プリント)に整理してくる。</p>			<p>○グループ担当者による発表(分担)、全体の話し合い。</p> <p>○指導者がまとめていく。</p> <p>○主題についての話し合い(第二次感想文の整理したものをとりあげて)</p> <p>○「羅生門」のまとめ(短編小説として、歴史小説として、芥川の生涯から)</p> <p>○課題——学習後の感想文、アンケート。</p>	<p>○グループにより問題解決の話し合いをする(疑問があれば指導)</p>	<p>○グループごとの問題整理用紙を提出する。</p> <p>○グループの代表者によって、全体で問題をまとめて、調整をはかる(指導者指示補足)</p>

4・5・6	3	2
<p>○問題点についての全体の話し合い(まず一・二段の場面を中心とした課題について)(次に三・四段中心)</p> <p>○指導者中心に意見をまとめてポイントをおさえていく。</p> <p>○主題について(課題と最初に提出した読後感想文を中心にして)</p> <p>○「羅生門」のまとめ</p> <p>○課題——学習後の感想文、アンケート</p>	<p>○前時に続いて、課題学習をする。三十分の学習後、指名により発表。問題点について全体話し合いにはいる。</p> <p>○指導者、まとめていく。</p>	<p>○課題学習にはいる——たゞし個人学習を中心に、相談は自由。</p> <p>○むずかしい語句・文、またむずかしい課題があれば、それを同時に明確にしていく(指導者指示)</p>

◎参考①小説学習アンケート項目

- ① 中学時代に学習した小説の題名を書いて下さい(作者がわかれば作者名も)
- ② 小説を読むことは好きか嫌いか、その理由も書いて下さい。
- ③ 今まで読んだ小説でもっとも印象に残っているものがあれば書いて下さい。登場人物や場面もおぼえていけば書いて下さい。
- ④ 小説はなんのために読むのか、考えるところを書いて下さい。
- ⑤ 芥川龍之介の作品について読んだものがあれば書いて下さい。
- ◎参考②読後感想文による問題点整理(一の三)
- 人間の弱さをあらわしている。(11名)
- 生きるか死ぬかの窮地に追いこまれた時の人間の醜さ。(8名)

- 人間の生きることのむずかしさ。(1名)
- 悪事をはたらいでも生きていくべきか。(2名)
- 人間は窮地に追いこまれると、このように利己的になってしまふものか。(2名)

- 善と悪との間でふらふらする人間の心を描いている。(1名)
- 善にも悪にも徹しきれない人間を描いている。(1名)
- 人間が生きるためにエゴイックになるのもやむをえない。

- (1名)
- 絶対的な死の前では、善悪など考えていられない。(1名)
- 下人はしかたなく盗人になったので、心はきれいだ。

- 下人にとってはこういう結末でよかったのだろう。(3名)
- 人間のエゴをせめる必要もない。私達はできるだけ生きぬくよう努めなければならない。(1名)

- 下人の生命力をつよく感じる。(1名)
- 下人の心の動きがよく描かれている。(7名)

- 気味悪い感じがする。(4名)
- 結末の部分が印象的である。(2名)
- 文章が簡潔である。

四、(A)、生徒の発見による問題

次に生徒の話し合いにより出された問題点をかかげておく。これは、各グループ代表者が調整したものであり、(補)とあるのは指導者が補足したものである。なお、これらの問題点は、考えてみたこと・話し合ってみたいこと・疑問に思うこととして各グループに指示し、各グループの読みとりによって出されたものである。

36 (頁) 3 (行) 「大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまっ

ている。」羅生門のどんな様子をあらわしているか。(補)この小説の舞台としての羅生門は、どのように描き出されているか。

37・8 「右のほおにできた、大きなきびを気にしながら」とあるが、下人のどんな事を表わそうとしているのか。また、「にきび」のことがたび／＼出てくるが、これは何を意味するのか。

37・10 なぜ小説の中に作者が出てくるのか。

38・8 「見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した礎の先に、重たく薄暗い雲をささえている。」表現の意味はどうか。

38・13 「選ばないとすれば……。」しかし、この『すれば』は、いつまでたっても、けっさよく『すれば』であった。」というのはどういうことか。

40・10 「口をあいたり手をのぼしたりして」の「口をあいたり」は「口をあけたり」ではないか。

40・14 「ある強い感情」とは何か。

41・8 「その髪の毛が、抜けるにしたがって、下人の心からは、恐怖が少しずつ消えていった。」なぜか。

41・9 「この老婆に対する激しい憎悪が、少しずつ動いてきた。」のはなぜか。

41・10 「あらゆる悪に対する反感が、一分ごとに強さを増してきた。」とあるが、なぜこんなにまで悪に対する反感が芽ばえたのか。しかし、またこういう反感を持ちながら、なぜ悪事を働いたのだろうか。

41・17 「合理的には……」の意味はどうか。(補)下人の行動描

写の巧みさ、老婆の描写の巧みさを指摘してみよう。

42・1 「しかし下人にとっては、この雨の夜に、この羅生門の上で、死人の髪の毛を抜くということが、それだけですでに許すべからざる悪であった。」なぜか。

43・1 「下人ははじめて明白にこの老婆の生死が、全然自分の意志に支配されている……」の「全然」の使い方はどうか。

43・2 「この意識は、今まで陰しく燃えていた憎悪の心を、いつのまにかさましてしまった。」のはなぜか。

43・15 「下人は、老婆の答えが存外、平凡なのに失望した。」とあるが、なぜ失望したのか。(下人はもっとほかのことを想像していたと思えるが何を想像していたのであろう。)

44・15 「ある勇気がわいてきた。」なぜ勇気がわいてきたのか。どんな勇気か。またなぜ老婆のことばを聞いているうちにこの勇気が生まれてきたのか。

(補)老婆の考え方の論理の特徴を考えてみよう。

45・1 「下人は、飢え死にをするか盗人になるかに、迷わなかったばかりではない、その時のこの男の心持から言えば、飢え死になどということは、ほとんど、考えることさえできないほど、意識の外に追い出されていた。」とあるが、これははっきり言えばどういうことなのか。

45・10 下人はなぜ老婆の着物をはぎとったのか。ほかに方法はなかったのか。

(補)老婆の着物をはぎ取って、夜の底へ駆けおりていった下人の行動について、どのように考えたらよいか。また、この下人の行動を通して、作者は何を言わんとしているか。(作者の

意図)

46・2 「つぶやくような、うめくような声」とあるが、老婆のどんな心境が考えられるか。

46・4 「黒洞々たる夜があるばかりである。」この表現効果についてはどうか。

46・6 「下人のゆくえは、だれも知らない。」これは何を意味しているか。

○下人はその後どのように生きてだろうか。

○作者の意図は何か。

○「羅生門」という題をつけたのはなぜだろう。また、どんな効果を表わしているのだろうか。

これらの問題点は、いろ／＼と検討してみる必要があると思うが、校外生徒は最初の試みながら鋭く問題をとらえているし、かえって指導者がまったく気づかなかった興味あることからも取りあげていて、生徒の意識のありかた、読みの理解度などその実態がわかって面白い。もちろん、問題の中には、漠然としたものがあつたり、単なる思いつきのものがあつたりして、煩雑になる傾向もあつたが、それはできるだけ焦点をしばつたり、表現をかえたりして整理した。

これらの問題を中心に次の時間より二時間かけて問題解決のグループ話し合い学習にはいったわけであるが、この話し合い学習については生徒の反省事項があるので、それよつてみていたゞきたい。グループ学習についての全体的な印象では、男女別々のグループは比較的話し合いがうまく進展していたが、男女混合のグループは無不活発であつた。男女混合のグループ学習は時期的にもはつきり無

理があることを感じた。また、一部の問題がまだ煩雑、漠然としたものであつて、問題そのものの意味をまず考えていくという失敗もあつた。

グループ学習の結果については、各グループの担当者に分担させて発表させ、特に問題として重要なことならについては他のグループの意見も同時に述べさせて学習を進めた。たゞし、未解決の問題も出た。

(B)、課題(10・105)

他の二クラスについては、指導者が次のような課題を与えて学習を進めた。この課題学習法については、課題そのものの問題(この度の課題は抽象的すぎて失敗であつたと思つている)や、学習形態の問題、その他種々の問題点があると思うが、やはり生徒の学習後の反省事項によつて問題の所在をあきらかにしたい。

①羅生門がどのように描き出されているか、その描写の中で効果的な部分を指摘してみよう。また、これはこの小説全体の中ではどのような意味があるか。

②一段の場面で、P 37・7～9行の「洗いざらした紺の襖の……ながめていた。」から、下人について考えてみよう。

③一段の場面から、下人の置かれた状況をはつきりさせよう。

④一段の場面で、情景描写が下人の心理描写の効果を高めていゝる部分を考えてみよう。

⑤P 38中心に下人の心理をはつきりととらえておこう(作者の作中での解釈、見解中心)

⑥下人の行動描写の巧みさ(比喩的表現)を指摘してみよう。

⑦ P 40・14の「ある強い感情」とは何か。

⑧ 老婆を見てからの、下人の心理の動きを説明してみよう。

⑨ P 41・9下人の心の中で、「この老婆に対する激しい憎悪が、少しずつ動いてきた。」とあるが、その前の心理と比較しながら、その理由を考えてみよう。

⑩ P 41・17の「合理的には……」の文の意味を考えてみよう
(下人の心理を分析、説明してみる)

⑪ P 42・43で、老婆をとらえてからの下人の心理を説明してみよう。

⑫ P 43での、老婆の話聞いたあとの下人の心理を説明してみよう。

⑬ P 44の老婆の考え方の論理の特徴を考えてみよう。

⑭ 老婆の論理に対しての、下人の心理の変化を分析、説明してみよう。

⑮ 老婆の着物をはぎ取って、夜の底へ駆けおりていった下人の行動について、どのように考えたらよいか。また、この下人の行動を通して、作者は何を言わんとしているのか。(ここには作者の、人間に対するどんな見方、認識があるか)

⑯ 結びの部分、「下人のゆくえは、だれも知らない。」について、どんなことを感じるか。

⑰ 芥川龍之介の他の歴史小説にどんなものがあるか。その一つを読み、「羅生門」とくらべてみよう。

⑱ 芥川龍之介の生涯とその作品の流れを調べよう。

五、生徒の受けとめかたと問題点

(A)、問題発見学習のばあい(一の三)

学習後、次の項目で生徒に思うところを書かせて提出させた。この①から⑧までの項目について整理し、指導者への問題点をあきらかにしてみたい。

①特にグループ学習についてどう思うか、書いて下さい。

②話し合いで、反省したいこと、注意したいことなど、書いて下さい。

③自分たちで問題を見つけ、そして話し合いにより解決していく学習のすすめかたについてどう思うか、書いて下さい。

④「羅生門」を学習して、感じたこと、考えさせられたことを書いて下さい。

①の項目(特にグループ学習について)

①A積極的に受けとめているV(多数)

○消極的な人も話すことができてよい。納得のいくまで話し合える。

○他人の意見が聞きやすい。

○他人の考えがわかってよい。

○学習の能率があがる。

○小説学習のばあい、グループ学習は効果がある。

②A消極的、また批判的に受けとめているV(4名のみ)

○意見の出ない人がいる。よく発言する人がいると、その人の意見にかたよる。

○非能率的である。

○クラス全体の話し合いで進めるべきだ。

○学習の進度がおくれる。

②の項目（話し合いで反省したいこと、注意したいこと）

①話し合いの心構え、その方法についての反省（19名）

④予習不足、話し合い不徹底についての反省（8名）

①司会者の司会のしかたについての反省（3名）

③グループ構成についての批判（2名）

①については、話し合いのすすめかたがまずい、雑談が多い、真剣さが足りない、さわがしい時がある、時間がかかりすぎるなどの反省が多かった。②については、予習不足で意見がない、話し合いが不充分、問題へのとりくみ不足などであり、④については、司会者の意見発言が多いというのがあった。⑤については、男女混合のグループ構成に対する批判であった。

③の項目（自分たちで問題を見つけ、そして話し合いにより解決していく学習のすすめかたについて）

○学習への関心が高まる。学習意欲がわく。積極的に学習に参加できる。

○徹底した問題追求ができる。

○読みが深くなる。

○自主性を養う。

○思考力がつく。

○問題を発見していく力がつく。

○ポイントのある話し合いができる。

○問題点を補足する必要がある。

○時間の配分をどうするか。

○話し合いのまとめが問題となる。

○雑談がはいりこむ。

△まとめ▽

この問題発見学習については、学習のすすめかたの珍しさもあってか、生徒は積極的に学習に参加していた。特にこの学習法に対する受けとめかたは積極的であり、③の項目の意見のように国語学習への関心を高め、学習の姿勢をつくりあげていこうとしている点が見られる。この生徒の意見から判断しても、生徒の国語学習への態勢（方向づけ）をつくりあげていくためにも、この問題発見学習をもっと積極的にとりあげてもよいのではないかと思う。

ただし、この学習法に問題点がないわけではない。生徒自身の批判はまだ少ないが、①問題の妥当性をどうするか、生徒自身適切な問題点を発見しえるかどうか、②問題に系統性がなくなると、局所的な問題追求に終わりはしないか、問題解決の話し合いのまとめをどうするか、③これはもっとも大切なことだが、問題化とその問題解決を通して、小説の叙述に本當に迫ることができるかどうか、表現の読みを離れてしまう危険性がないかどうか、④もっと学習時間のうえで、能率をあげることはできないか、「羅生門」の学習に八時間というのはいかにも長時間である。⑤グループでの話し合いのしかたについて、どういう段階でどのように指導していくか、グループ学習のありかたも考慮しないで、このような学習法を行なってよいかどうか、などの大きな問題がある。これからの私自身への課

題である。

(B)、課題学習のばあい(一の一のみ)

次に課題学習のばあいについて整理し、生徒の受けとめかたをみていきたい。

- ① 課題を与えられて、それを中心にして解決していく学習のすめかたについてどう思うか、書いて下さい。
- ② 課題を實際にやっている時感じたことがあれば書いて下さい。
- ③ 「羅生門」の学習(自分の)で、反省したいこと、注意したいことを書いて下さい。
- ④ 「羅生門」を学習して、感じたこと、考えさせられたことを書いて下さい。

①の項目(課題を与えられて、それを中心にして解決していく学習のすめかた)

- 問題を自分で見つけていく学習も必要である。(7名)
- よかった(理由なし)(6名)
- 学習の方法がわかる。(5名)
- 楽である(学習がしやすい)(5名)
- 問題点がよくわかる。(3名)
- 学習意欲がわく、積極的に学習ができる。(3名)
- グループ学習にすべきだ。(2名)
- 基礎的な学習として必要である。(1名)
- 積極性に欠ける。(1名)
- 問題がむずかしい。(1名)

○時間不足。(1名)

これによってみると、学習の方法がわかる、学習しやすい、問題点がよくわかってポイントがつかめる、学習意欲がわく、などのように、一クラス約半数の生徒が積極的に受けとめていることがわかる。国語学習の方向づけをするためにも、この課題学習法を取り入れていくことも大切であろう。たゞ、「問題を自分で見つけていく学習」の必要性を述べている生徒が七名もいたことは、課題学習だけでは満足せず、もっと積極的な学習のすめかた(つまり、課題の解決のみでなく、課題の追求から全生徒の協同で新しい問題を発見していくような方向)を求めていると思われる。課題学習の上手な運用が問題となる。

②の項目(課題を實際やっている時感じたこと)

- 課題がむずかしすぎる。(7名)
 - 学習が楽しかった、討論が楽しかった。(2名)
 - グループ学習がよかったのではないか。
 - 時間が少なすぎる。
 - 学習計画をはっきり示してほしい。
 - 学習の必要性がわかった。
 - 読みを深めていくことの大切さがわかった。
 - 指導者の意見がほしい。
- ③の項目(「羅生門」の学習で反省したいこと、注意したこと)
- 読みのあささを感じた。じっくりとくりかえし読んでおくべきだった。(15名)

○予習不足を痛感した。(4名)

○積極的に発言すべきであった。(3名)

○問題中心主義の学習であった。答えを出せばよいというだけで、小説を読み味うことができなかった。(2名)

○いろいろ／＼な方面から問題を考えていきたい。(1名)

この生徒の反省点で問題となるのは、わずか二名ではあるが、問題解決中心主義の学習で、小説の読み味ができなかったと書いている点である。これについては、すでに問題発見学習のところでもふれたことだが、特に小説鑑賞のばあいのこれらの学習方法については、大きな課題となるだろうと思う。叙述にせまる、主題にせまる課題設定を考えていかなければならないであろう。

△まとめV特に気づいた問題点

○安易な学習におちいるということ(学習がしやすい、楽だ)

○発展的な学習も必要であること(問題発見学習へ)

○課題の難易が授業を左右すること

○問題解決中心主義の学習には限界がないかどうかということ
(小説学習のばあい)

六、おわりに

以上、「羅生門」の学習のばあいについて実施した、(A)問題発見学習と(B)課題学習の実践結果であるが、指導そのものが未熟なため、なおじゅうぶんな成果があげられていないようである。たゞ、自分なりにこの二つの学習方法の進むべき方向を多少とも見定めたと思っている。この学習方法についての問題点は、あくまで生徒

自身実際の学習を通して提出したものであるで、それはしたがって同時に指導者自身の反省点でもあり、これを一般化して論ずるのは危険であると思うが、ある程度これらの学習方法についての重要な視点はうかがえると思う。

小説教材という問題点もあるが、この二つの学習方法を同時に実施してみても、生徒がひじょうに積極的に受けとめようとしていることを、私は強く感じたわけであるが、それ故にこそこの二つの学習方法を発展的に段階を考えてうまく運用すれば、学習効果もあがるのではないかと思う。特に、(A)の問題発見学習のばあい生徒の活動もいっそういき／＼としており、学習の方向づけはもちろん、学習の深化もじゅうぶん期待できると思う。そのためには、今までふれてきた問題点について、ひとつずつ解決していかなければならない。

(昭和四十三年二月) (広島県立呉三津田高等学校教諭)